

第2章 社会・地理歴史・公民科における考え方と実践例

1 社会・地理歴史・公民科において課題を解決するために必要な資質・能力とは、どのようなものか

(1) 教育基本法及び教科目標から

我が国の教育は、教育基本法を頂点とした法体系の下で行われる。教育基本法第1条には「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成（下線は筆者による。）」が明記されている。この条文は、社会・地理歴史・公民科の目標にも示されているものであり、その意味で社会・地理歴史・公民科教育は、教育基本法が示す教育の理念に直接的に迫る崇高な使命をもっていると言える【資料1】。

このように、社会・地理歴史・公民科において課題を解決するために必要とされる資質・能力とは、教育基本法及び学習指導要領に示された「公民的資質」を養うことに不可欠な資質・能力であると捉えることができる。

(2) 学習指導要領解説に見る能力に関する目標から

「公民的資質」を養うためには、社会・地理歴史・公民科において、どのような能力を育成する必要があるのだろうか。小学校学習指導要領解説社会編には、社会科の能力に関する目標が【資料2】のように示されており、「社会的事象の意味について考える力」、「調べたことや考えたことを表現する力」など、いわゆる「社会的な思考・判断・表現」をする力の育成が求められている。

このことから、「社会的な思考・判断・表現」をする力は、課題を解決するために必要な資質・能力の中核であると言えるのではないかと考える。このことは、中学校社会科、高等学校地理歴史・公民科においても同様であると考えられる。

この「課題を解決するために必要な資質・能力」については、【資料3】に示すように、「社会的事象への関心」や「主体的に課題を解決する意欲」、「社会参画の態度」を養うとともに、「社会的事象についての知識」及び「資料活用 of 技能」と、「社会的な思考・判断・表現」とを、車の両輪のようにバランスよく育成することが重要である。

【資料1】「教育基本法」と「社会・地理歴史・公民科の教科目標」の関連

【教育基本法（第1章 教育の目的及び理念）】

第1条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

【学習指導要領（小学校 社会科）】

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【学習指導要領（中学校 社会科）】

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【学習指導要領（高等学校 地理歴史科）】

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

【学習指導要領（高等学校 公民科）】

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。（※ 下線は筆者による。）

【資料2】学習指導要領解説に見る能力に関する目標

○ 第3学年及び第4学年

地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

○ 第5学年

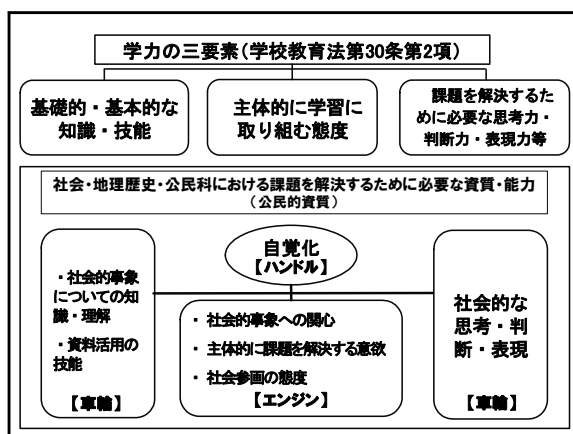
社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

○ 第6学年

社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

小学校学習指導要領解説社会編p.15から抜粋（※下線は筆者による。）

【資料3】課題を解決するために必要な資質・能力



また、社会・地理歴史・公民科における課題解決に必要な資質・能力は、【資料4】のように、課題解決の過程で、児童生徒が解決の状況を自覚しながら高めていくイメージでも表すことができる。まず、課題発見・課題設定によって、社会的事象の一般的な傾向や法則、社会的事象間の因果関係について理解しようとするなど、社会的事象への関心・意欲を高める。次に、課題追究に必要な知識を習得し、社会的事象に関する事実を各種の資料を基に読み取ったり、社会的事象のもつ特色や意味、意義について各種の資料等を基に解釈したりする。そして、これらを活用して思考・判断・表現することで課題解決を図る。本研究は、このような学習過程で児童生徒が主体的・協働的に学ぶことを通して、課題解決に必要な資質・能力を育成することを目指している。

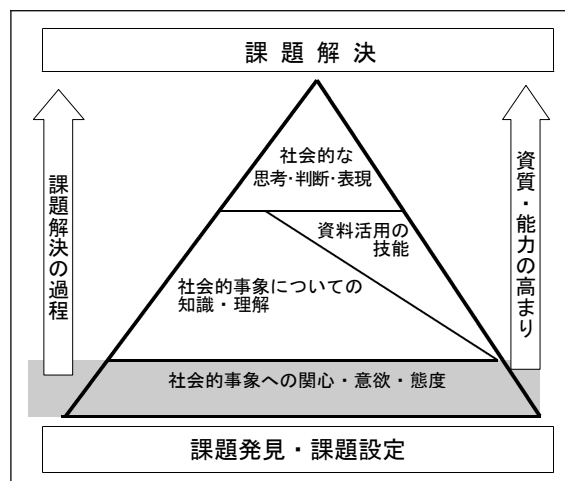
(3) 課題解決的な学習過程における児童生徒の具体的な姿とは

社会・地理歴史・公民科の課題解決的な学習過程において、児童生徒が取り組んでいる姿とは、どのようなものであろうか。その姿や資質・能力を重点化したものを【資料5】に示す。

社会・地理歴史・公民科における児童生徒の具体的な姿の例としては、「適切な課題を自ら設定できること」、「課題解決のために必要な知識を習得できること」、「課題解決のために必要な資料を収集し、それを基に多面的・多角的に考察することができること」などが挙げられる。このような課題解決の過程において、教師は、児童生徒に「どのような知識・技能を習得させるか。」ということだけでなく、「どのような資質・能力を身に付けさせるのか。」ということについて重点を置きながら授業づくりを行う必要がある。

以上のように、社会・地理歴史・公民科における課題を解決するために必要な資質・能力とは、「公民的資質」であり、それを養うための「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・資料活用」の技能、「知識・理解」と言える。その際、課題解決の状況を自覚し、自己修正する力などが重要になる。

【資料4】課題解決と資質・能力の高まりのイメージ



《県総合教育センター指導資料 社会 第127号を基に作成》

【資料5】各学習過程における資質・能力と児童生徒の具体的な姿の例

- ※① 「社会的事象についての知識・理解、資料活用」の技能
 ※② 「社会的な思考・判断・表現」
 ※③ 「社会的事象への関心・意欲・態度」

過程	児童生徒の具体的な姿の例	※①	※②	※③
導入 課題設定場面	【課題を見だし、追究意欲を高める場面】 ・ 社会的事象に関する疑問をもち、課題を明確にし、既習事項を基に他者の考えを踏まえて課題を設定することができる。	◎	○	◎
	【見通しをもって、情報を収集する場面】 ・ 課題解決に向け、予想や仮説を立てることができる。	○	◎	○
展開 課題追究場面	【収集した情報を整理・分析する場面】 ・ 基礎的な知識や技能を習得し、言葉やデータを関連付けながら課題を解決することができる。 ・ 資料から社会的事象のもつ意味や意義などを読み取り、解釈したことを基に、説明や論述を行うことができる。	◎	◎	◎
終末 課題解決場面	【課題に対する考えをもち、適切に表現する場面】 ・ 課題追究により得られた学習成果から学習課題に対するまとめをすることができる。 ・ 自己の学習状況を振り返り、学んだことの価値や自己の考えのよさに気づき、学習課題解決の満足感や成就感及び次の学習への意欲をもたせる。	○	◎	○

《県総合教育センター指導資料 社会 第121号を基に作成》

2 社会・地理歴史・公民科において解決に取り組ませるべき課題は、どうあるべきか

これまで述べてきたような資質・能力を育成する授業を行うためには、児童生徒が主体的・協働的に取り組もうとする意欲を喚起する学習課題を設定すべきである。その際、社会・地理歴史・公民科においては、単元及び単位時間で児童生徒に身に付けさせたい内容が学習のゴールになるため、児童生徒がそのゴールに向けて、問いの形で表現したものが学習課題となる。

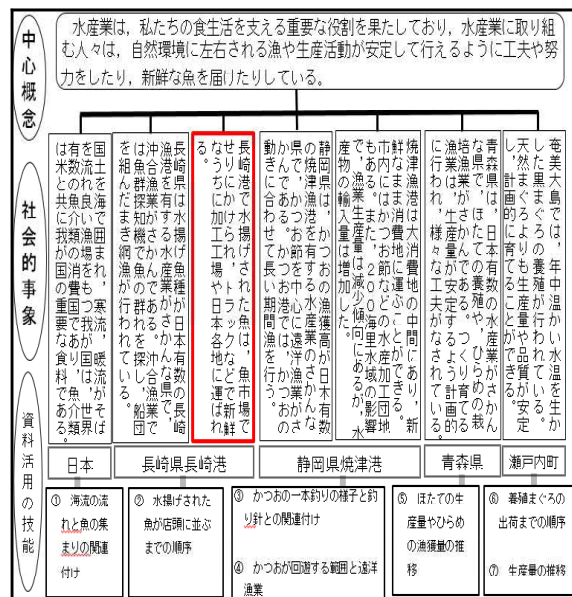
例えば、【資料6】は、小学校社会科第5学年「水産業と人々の暮らし」の単元の内容を構造的に示したものである。この資料内の「長崎港で水揚げされた魚は、魚市場で競りに掛けられ、トラックなどで新鮮なうちに加工工場や日本各地に運ばれる。」という学習内容であれば、学習課題は、「長崎港で水揚げされた魚は、どのようにして日本各地に運ばれるのだろうか。」などと設定することができる。

また、【資料7】に示すように、学習課題の問いによって社会認識の深まりの度合いが変わるため、社会認識形成の段階に応じた学習課題を設定すべきである。

まず、社会的事象についての事実を知る段階では、「何を」、「誰が」などの知識を直接的に導くような問いが考えられる。次に、社会的事象の一般的な傾向や因果関係を考えて理解する段階では、「なぜ」、「どのように」という思考を促す問いが考えられる。さらに、学んだことを活用して社会的事象について、より深く考察する段階では、「どうすべきか」といった判断を求めるような問いが考えられる。

例えば、高等学校公民科における「パレスティナ問題」についての学習課題例を【資料8】に示す。どの学習課題においても、課題解決的な学習を展開することが可能であるが、学習課題例1は、社会的事象についての事実を知ることにとどまる課題となっている。学習課題例2は、社会的事象の因果関係について考察させる課題となっている。これに対し、学習課題例3は、社会的事象について判断を迫り、主体的・協働的な学習の意欲を喚起する課題となっている。

【資料6】学習内容を支える資質能力の構造例
(小学校第5学年 単元「水産業と人々の暮らし」)

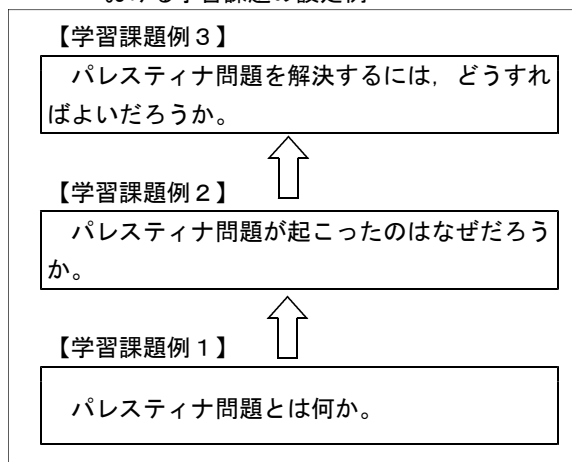


【資料7】社会認識の深まりと学習課題の問いとの関連

学習課題の問い	社会認識形成の段階	社会認識の深まり
・ どうすべきか	・ 学んだことを活用して身近な社会的事象について考察（判断）できる。	社会的事象について、より深く理解（認識）する。
・ なぜ	・ 社会的事象間の因果関係について理解できる。	↑
・ どのように	・ 社会的事象の一般的な傾向や法則性を理解できる。	
・ 何を ・ 誰が ・ どこで ・ いつ	・ 身近な社会的事象についての事実を知る。	社会的事象について、事実を知る（認識する）。

（県総合教育センター指導資料 社会 第112号を基に作成）

【資料8】高等学校公民科「パレスティナ問題」における学習課題の設定例



3 社会・地理歴史・公民科において児童生徒が主体的・協働的に学ぶためには、どのような工夫が効果的か

社会・地理歴史・公民科は、これまでも課題解決的な学習を行う中で、児童生徒が主体的・協働的に学ぶような学習を大切にしてきた。そのことは、言語活動の充実を図る中でも同様であった。しかし、課題解決的な学習の型だけを重視し、学習課題や学習活動が形骸化した授業も散見された。

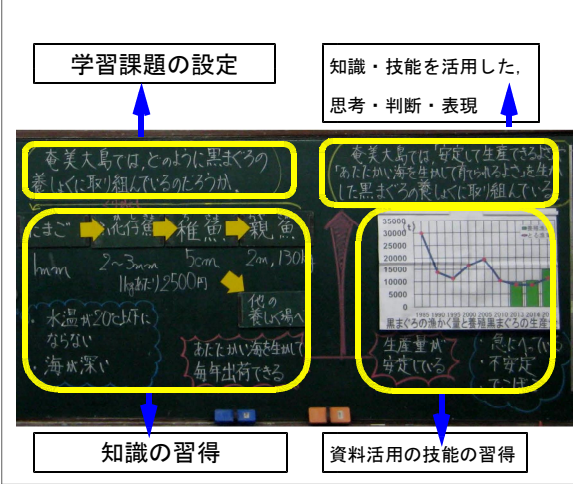
課題解決に必要な資質・能力を身に付けるためには、課題解決的な学習の中で、習得した知識・技能を活用して思考・判断・表現することが大切であることは既に述べた。児童生徒が、主体的・協働的な学習を行う中で、「活動あって学びなし」とならないためにも、【資料9】に示す、習得と活用の過程を板書上でも構造的に位置付けることで、児童生徒の深い理解につなげていくことができる。

さらに、単元及び単位時間における課題解決に必要な資質・能力を育成するために、予想される児童生徒の表現例を事前に想定し、児童生徒が主体的・協働的に学ぶために必然性のある学習課題や内容、形態等を課題解決的な学習過程に位置付けていくことが大切である。そこで、「どのような知識・技能を活用」し、「どのような活動を設定」し、「どのような思考・判断・表現」をさせるのかを明確にできるように【資料10】に示すような授業づくりのワークシートを作成することを提案する。

その際、これまで当センターが提唱してきた、「判断基準」の考え方を適用することができると考える。つまり、課題解決を行った後の振り返りで、学習前の児童生徒の資質・能力と比べて変容が見られると、主体的・協働的に学ぶ学習が適切に展開されたと考えられるということである（【資料11】）。

これまで述べてきたように、社会・地理歴史・公民科における児童生徒の主体的・協働的な学習を充実させるためには、教師は単に、学習形態を整えればよいということではなく、児童生徒が身に付けた知識や技能を活用して、主体的に思考・判断・表現するような課題解決の流れを明確にしておくことが大切なのである。

【資料9】 習得した知識・技能を活用して思考・判断・表現する流れの見える板書

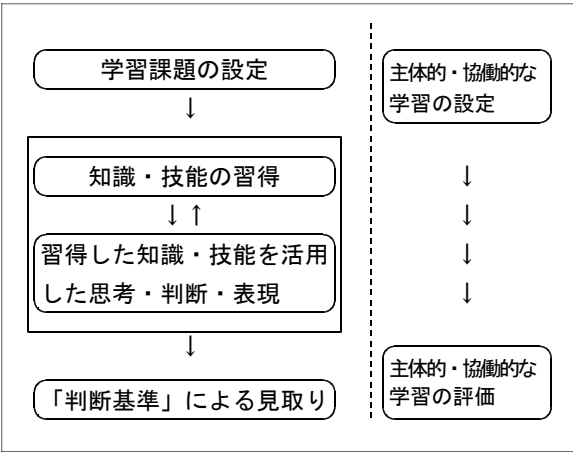


【資料10】 課題を解決するために必要な資質・能力を育てる授業づくりのワークシート

過程	課題解決的な学習における習得と活用	主体的・協働的な学習の設定
1 導入	学習課題の設定による学習への「関心・意欲」の喚起 鹿児島市のごみを減らすには、どのようなことが必要だろうか。	
2 展開	学習課題解決のために習得させたい「基礎的・基本的な知識」 ○ 鹿児島市は、様々なごみ減量の取組を行っている。 ○ ごみ袋の有料化や細かい分別を行っている市町村がある。 ○ 企業は、簡易包装やリサイクルなどの取組をしている。 ○ 市民は、3R運動を実施している。	※ 前時までに学習してきたことを踏まえ、鹿児島市で実施した方がよいと思われるごみ減量のための取組を各自で考える。
3 展開	学習課題解決のために習得させたい「資料活用の技能」 ○ 鹿児島市のごみの種類の割合、処理にかかる費用 ○ ごみの有料化の成功事例と課題に関する文書資料 ○ 大崎町のごみ分別数 ○ リサイクル推進課の方の話	※ 各自で考えたごみ減量の取組の中からグループで選び、その理由についても話し合う。
4 活用	習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」 鹿児島市では、ごみ処理のために、市の計画に沿って様々な取組が行われている。市民や企業が協力して、更にごみの減量化に努めていく必要がある。	
5 まとめ	予想される児童生徒の「表現」例 鹿児島市のごみを減らすには、市の計画に沿った市民一人一人の努力に加え、市や企業の協力も必要である。	

《小単元「ごみのゆくえ（第13/14時）」西陵小 前野教諭の実践から作成》

【資料11】 「判断基準」による見取り



【平成27年度調査研究発表会】

第2分科会(社会・地理歴史・公民)研究発表

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
ー主体的・協働的に学ぶ学習の工夫を通してー



鹿児島県総合教育センター
教科教育研修課

1

発表内容

- I 研究主題に関する基本的な考え方
 - 1 研究主題設定の理由
 - 2 教員の意識や取組に関する調査の結果
- II 社会・地理歴史・公民科における考え方と実践例
 - 1 社会・地理歴史・公民科において課題を解決するために必要な資質・能力
 - 2 社会・地理歴史・公民科において解決に取り組ませるべき課題
 - 3 社会・地理歴史・公民科において児童生徒が主体的・協働的に学ぶための工夫

1

研究主題設定の理由～今日的な教育の動向～ p.1

複雑、未知、答えが多様で正答の定まらない課題と直面

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」 平成26年11月20日

(中略)

そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

4

研究主題設定の理由～研究内容～ p.1

課題を解決するために必要な資質・能力の明確化

「学力の三要素」が
よりよく育まれる授業

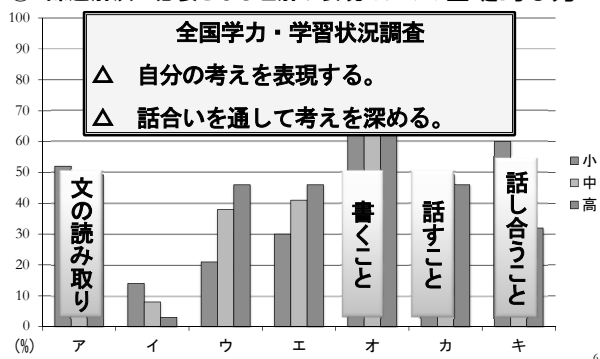
授業において
解決に取り組ませるべき
課題の工夫

主体的・協働的に
学ぶ学習の工夫

教員の意識や取組に関する調査の結果 p.2-図1

不十分だと感じている資質・能力

① 課題解決に必要な理解や表現のための基礎的な力

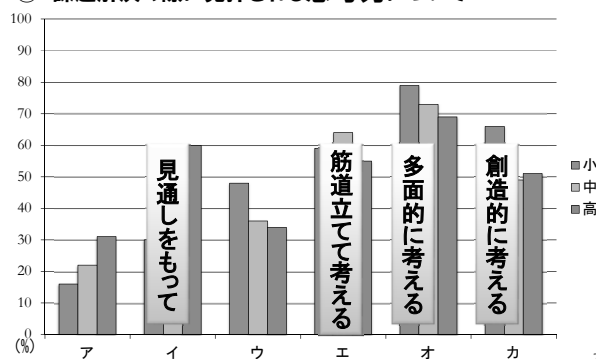


6

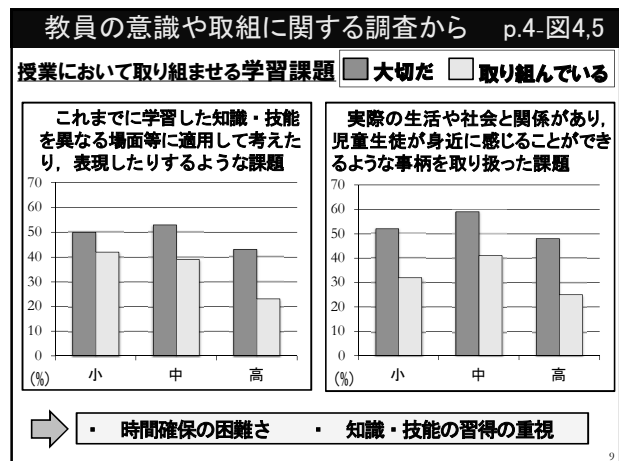
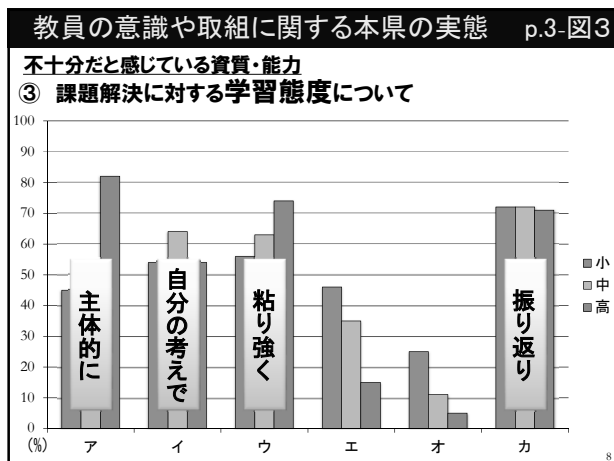
教員の意識や取組に関する本県の実態 p.3-図2

不十分だと感じている資質・能力

② 課題解決の際に発揮される思考力について



7



発表内容

I 研究主題に関する基本的な考え方

- 研究主題設定の理由
- 教員の意識や取組に関する調査の結果

II 社会・地理歴史・公民科における考え方と実践例

- 社会・地理歴史・公民科において課題を解決するために必要な資質・能力
- 社会・地理歴史・公民科において解決に取り組ませるべき課題
- 社会・地理歴史・公民科において児童生徒が主体的・協動的に学ぶための工夫

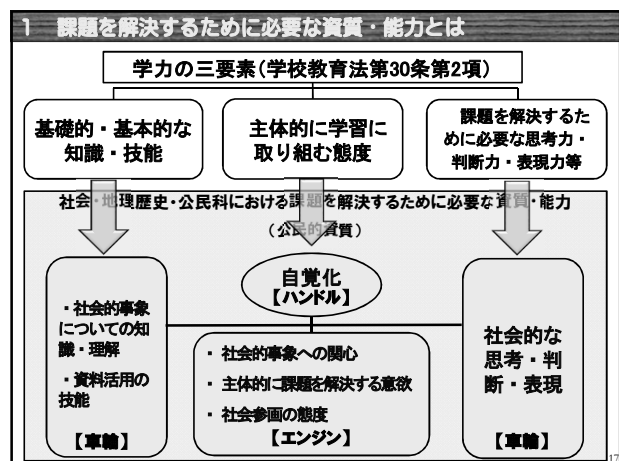
1 社会・地理歴史・公民科において課題を解決するために必要な資質・能力とはどのようなものか

1 課題を解決するために必要な資質・能力とは

【教育基本法 (第1章 教育の目的及び理念 第1条)】
(略) 国家及び社会の形成者として必要な資質 (略)

【学習指導要領 (小学校 社会科)】
社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【学習指導要領 (中学校 社会科)】
広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。



1 課題を解決するために必要な資質・能力とは

課題解決

社会的な
思考・判断・表現

資料活用
の技能

社会的な事象について
の知識・理解

社会的な事象への関心・意欲・態度

課題発見・課題設定

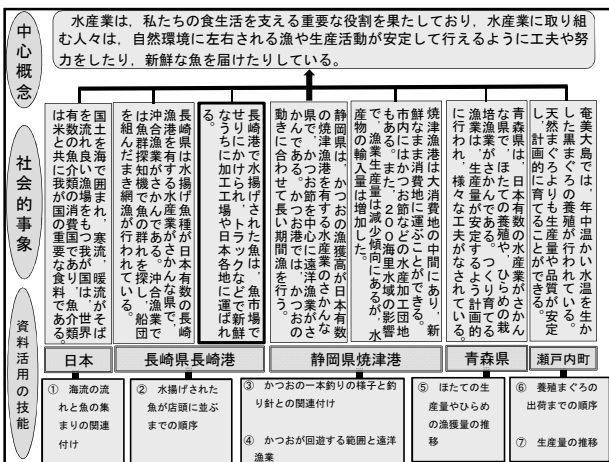
課題解決の過程

資質・能力の高まり

県総合教育センター指導資料 第127号を基に作成 18

2 社会・地理歴史・公民科において解決に取り組ま
せるべき課題

はどうあるべきか。



2 解決に取り組ませるべき課題とは		
学習課題の問い	社会認識形成の段階	社会認識の深まり
・ どうすべきか	・ 学んだことを活用して身近な社会的事象について考察（判断）できる。	・ 社会的事象について、より深く理解（認識）する。
・ なぜ ・ どのように	・ 社会的事象間の因果関係について理解できる。 ・ 社会的事象の一般的な傾向や法則性を理解できる。	
・ 何を 誰が いつ どこで	・ 社会的事象についての事実を知る。	

県総合教育センター指導資料 第112号を基に作成

2 解決に取り組ませるべき課題とは

高等学校公民科「パレスティナ問題」における学習課題の設定例

【学習課題例3】

パレスティナ問題を解決するには、どうすればよいだろうか。

【学習課題例2】

パレスティナ問題が起こったのはなぜだろうか。

【学習課題例1】

パレスティナ問題とは何か。

26

3 社会・地理歴史・公民科において児童生徒が主体 的・協動的に学ぶためには どのような工夫が効果的か。



28

3 主体的・協働的に学ぶためには		
過程	課題解決的な学習における習得と活用	想定される主体的・協働的な学習
導入	1 学習課題の設定による学習への「関心・意欲」の喚起 鹿児島市のごみを減らすには、どのようなことが必要だろうか。	前時までに学習してきたことを踏まえて、鹿児島市で実施した方がよいと思われるごみ減量化のための取組を各自で考える。
展開	2 学習課題解決のために習得させたい「基礎的・基本的な知識」 ○ 鹿児島市は、様々なごみ減量の取組を行っている。 ○ ごみ袋の有料化や細かい分別を行っている市町村がある。 ○ 企業は、簡易包装や服のリサイクルなどの取組をしている。 ○ 市民は、3 R（スリーアール）運動を実施している。	

29

3 主体的・協働的に学ぶためには		
過程	学習課題解決のために習得させたい「資料活用の技能」	想定される主体的・協働的な学習
展開	3 技能の習得 ○ 鹿児島市のごみの種類の割合、処理にかかる費用 ○ ごみの有料化の成功事例と課題に関する文書資料 ○ 大崎町のごみ分別数 ○ リサイクル推進課の方の話	ごみ減量の取組について、各自で調べたことを基に、グループで話し合う。
思考判断	4 習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」 鹿児島市では、ごみ処理のために、市の計画に沿って様々な取組が行われている。市民や企業が協力して、更にごみの減量化に努めていく必要がある。	
終末	5 まとめ 予想される生徒の表現例 鹿児島市のごみを減らすには、市の計画に沿った市民一人一人の努力に加え、市や企業の協力も必要である。	

30

3 主体的・協働的に学ぶためには

学習課題の設定

習得した知識・技能を活用した思考・判断・表現

奄美大島では、どのように黒まぐろの養いに取り組んでいるのだろうか。

奄美大島では、安定して生産できるように、あなかい海を生かして育てることに生かして黒まぐろの養いに取り組んでいる。

たまご 稚魚 親魚

水温 20℃以下にならない
海水が深い

あなかい海を生かして、毎年出荷できる

生産量 安定している

不安定ではない

知識の習得

資料活用の技能の習得

31

3 主体的・協働的に学ぶためには

授業づくりワークシートのススム

学習課題の設定による学習への「関心・意欲」の喚起

想定される主体的・協働的な学習

① 奄美大島では、どのように黒まぐろの養いに取り組んでいるのだろうか。

② 奄美大島では、安定して生産できるように、あなかい海を生かして育てることに生かして黒まぐろの養いに取り組んでいる。

③ 奄美大島では、水温 20℃以下にならない、海水が深い、あなかい海を生かして、毎年出荷できる、生産量 安定している、不安定ではない、知識の習得、資料活用の技能の習得。

④ 奄美大島では、水温 20℃以下にならない、海水が深い、あなかい海を生かして、毎年出荷できる、生産量 安定している、不安定ではない、知識の習得、資料活用の技能の習得。

⑤ 奄美大島では、水温 20℃以下にならない、海水が深い、あなかい海を生かして、毎年出荷できる、生産量 安定している、不安定ではない、知識の習得、資料活用の技能の習得。

⑥ 奄美大島では、水温 20℃以下にならない、海水が深い、あなかい海を生かして、毎年出荷できる、生産量 安定している、不安定ではない、知識の習得、資料活用の技能の習得。

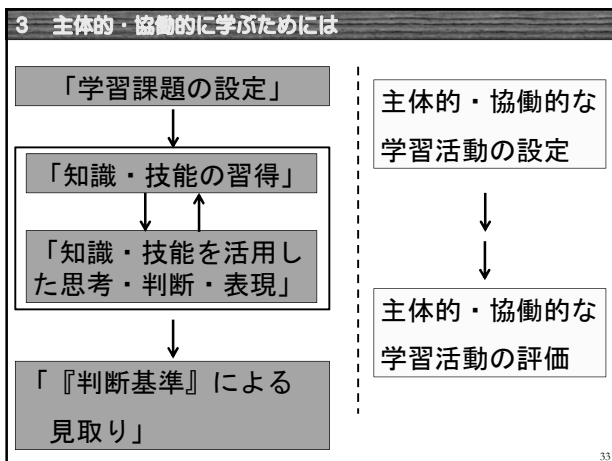
⑦ 奄美大島では、水温 20℃以下にならない、海水が深い、あなかい海を生かして、毎年出荷できる、生産量 安定している、不安定ではない、知識の習得、資料活用の技能の習得。

⑧ 奄美大島では、水温 20℃以下にならない、海水が深い、あなかい海を生かして、毎年出荷できる、生産量 安定している、不安定ではない、知識の習得、資料活用の技能の習得。

⑨ 奄美大島では、水温 20℃以下にならない、海水が深い、あなかい海を生かして、毎年出荷できる、生産量 安定している、不安定ではない、知識の習得、資料活用の技能の習得。

⑩ 奄美大島では、水温 20℃以下にならない、海水が深い、あなかい海を生かして、毎年出荷できる、生産量 安定している、不安定ではない、知識の習得、資料活用の技能の習得。

32



33

【平成27年度調査研究発表会】

第2分科会(社会・地理歴史・公民)研究発表

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究

—主体的・協働的に学ぶ学習の工夫を通して—

御清聴、ありがとうございました。

鹿児島県総合教育センター
教科教育研修課

34

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
－第5学年「水産業の盛んな地域」の実践を通して－

奄美市立奄美小学校
教諭 枝迫 大明

I 研究実践の目的

本研究の実践を進めるに当たっては、追究対象への関心・意欲を高めたり、学び合うことの意義を感じ、よりよい人間関係を築く力を高めたりすることができるような学習課題を設定することが必要である。その追究過程においては、「知識・技能の活用を図る学習活動」や「学習課題について見通し、振り返る学習活動」の充実を図ることも必要である。

そこで、児童の学習意欲を高めたり、知識・技能を活用したりするような教材を取り入れることを視野に入れながら、学習内容の構造を分析し、知識の構造図を明確にした授業づくりをする。その際、どんな資質・能力を必要とするのかについて、児童の実態を踏まえ、その資質・能力を発揮させるようにしたい。

また、学習内容や指導方法において、主体的・協働的に学ぶ学習の工夫がなされているかについても、言語活動の充実を図りながら、本研究の実践を進めることとする。

以上のことを踏まえ、第5学年小单元「水産業のさかんな地域」において実践する。

II 研究の実際

1 教材観・児童観・指導観

(1) 教材観

本小单元では、水産業の盛んな地域、とる・育てる漁業に従事する人々の工夫や努力、水産業に関わる運輸の働き、水産業の抱える問題点を主に取り扱う。水産業は私たちの暮らしを支える重要な役割を果たしており、水産業に従事する人々が自然環境を生かしたり克服したりしながら生産を高める工夫や努力をしていることを理解させることができる。また、写真や地図・統計グラフ等を基にして分布や順序を読み取りながら、私たちの食料を確保している取組について、関心・意欲をもって調べさせたり、国民の食生活と水産業に従事する人々の工夫や努力とを関連付けて思考・判断・表現させたりすることもできる。

我が国は周囲を海に囲まれた島国として、豊富な水産資源に恵まれ、生産量・消費量共に世界有数の国である。また、水産業に従事する人々は、漁獲高を高めるために漁業技術を向上させたり、水産資源の保護に努めたりしてきた。さらに、交通網や運輸の働きの発達により、水産物は新鮮な状態で消費者に届けられるようになっている。そして、冷凍技術の発達のおかげで、地理的な距離を克服し、生産した水産物を生産地から消費地に届けられるようになっている。しかし、水産業を取り巻く環境は厳しく、200海里漁業水域や輸出入の制限などによる国際問題など、我が国だけでは解決できない問題が多い。

そこで、ここでは、我が国の水産業が地形や気候などの自然環境や社会的な条件を生かしていることや、消費者の需要に応え、新鮮で良質なものを生産し出荷するための工夫や努力をしていることをより具体的に考えられるようにするために、水産業の盛んな地域、とる・育てる漁業に従事する人々の工夫や努力、交通網や運輸の働きを取り上げる。特に、児童にとって身近に行われている大島郡瀬戸内町の養殖の黒まぐろを取り上げる。本教材は、黒まぐろの養殖に従事する人々が、奄美大島の自然環境を生かしたり黒まぐろの養殖の難しさに向き合ったりして育てていることや、養殖まぐろの費用や価格について取り扱い、我が国の水産業の特色を捉えさせることができ、また、単元全体を通して我が国の水産業についての見方や考え方を成長させるために、「読み取り」、「解釈」、「説明」、「論述」等の言語活動を充実させ、調べたことや考えたことを表現させることができる教材であると考ええる。

(2) 児童観

児童の多くが、普段の生活で魚を食べることが多くないと答えていることから、魚に対する興味を高めるような工夫をする必要がある。そして、水産業を身近に感じるものが少ないことから、水産業に従事する人々の工夫や努力を想起できていない様子が見られる。そこで、漁獲量を高めたり水産資源を保護したりする工夫や努力と関連付けさせながら学習を展開する必要がある。

また、写真や地図・統計グラフ等を基にして、水産業について具体的に読み取らせる際には、無回答の児童が多いことから、複数の資料の共通点や相違点に着目させて比較したり関連付けたりして読み取らせることで、資料活用の技能を高めるだけでなく、自分の考えを支える根拠を生かした「解釈」や「説明」ができるようにする。その際、自分の考えを相互に交流できるような主体的・協働的な学習の場を設定する。このようにして基礎的な学習内容の定着を図るとともに、我が国の水産業についての見方や考え方を成長させたい。

(3) 指導観

本小単元の指導に当たっては、「水産業の盛んな地域」、「とる漁業や育てる漁業に従事する人々の工夫や努力」、「交通網や運輸の働き」という追究の柱で追究させていく。その際、「交通網や運輸の働き」、「価格や費用」といった視点からも我が国の水産業について話し合わせる。話し合わせる際には、主体的・協働的な学習の場を設定し、根拠を明確にして論理的に自分の考えを伝えるよさを味わわせたり、本時のまとめ（「説明」）をめあてを基に振り返らせたりする。

まず、児童にとって身近な魚料理である寿司のネタに着目させ、様々な種類の魚を食べていることに気付かせる。次に、同じ大きさの寿司ネタでも、魚の見た目や大きさは違うことに気付かせながら、「様々な種類の魚をどのようにしてとり、私たちに届けているのだろうか。」という問題意識をもたせ、我が国の水産業の特色について追究する意欲を高めたい。そして、追究計画を立てさせ、見通しをもって追究する喜びを味わわせたり自分の考えをもたせたりしたい。

そして、我が国の水産業の特色を明らかにするために、主な水産物の漁獲量や主な漁場、地形条件、交通網や運輸の働きについて具体的に調べられるようにする。そこで、まず、港の分布図を基に、水産業の盛んな地域が全国に点在し、地形条件を生かしていることを捉えさせる。次に、様々な漁法を示した資料を掲示し、水揚げされる魚に様々な種類があることや漁獲量から、水産物の種類に合わせた漁法があることを捉えさせる。さらに、育てる漁業について生産量が安定していることを、生産の過程の工夫に着目させたり、とる漁業の漁獲量から考えさせたりする。ここでは、特に、奄美大島の黒まぐろの養殖を取り扱い、身近な地域素材について学ばせるようにする。追究した結果、自分なりに分かった我が国の水産業の特色について、学習問題や予想したことを振り返らせ、水産業に取り組む人々の主体的・協働的な関わりについて新聞にまとめさせる。特に、予想していたこととの関連で、学習課題に対する自分の考えを「論述」させることも重視する。

2 本小単元目標

- (1) 我が国の水産業の特色について関心をもち、これまでの学習や生活経験を振り返りながら取り組むことができる。
- (2) 我が国の水産業について、水産業の盛んな地域や水産業に取り組む人々の工夫や努力、運輸などの働きについて調べ、水産業とわたしたちの暮らし、水産業と地形条件及び交通網や運輸の働きとを関連付けながら、我が国の水産業の特色を考えることができる。
- (3) 複数の写真の順序や地図やグラフ等の分布を読み取ったり、自分の調べたことを明確にしたりして我が国の水産業の特色について分かったことを、構造的に絵図に表現したり、個人新聞にまとめたりすることができる。
- (4) 我が国の水産業に取り組む人々が生産を高め、消費者の需要に応えるために漁業技術の改善や漁場の保全などの工夫や努力をしていることを理解し、その働きが国民の食生活を支える水産資源の保護や育成という重要な役割を果たしていることに気付くことができる。

3 指導計画

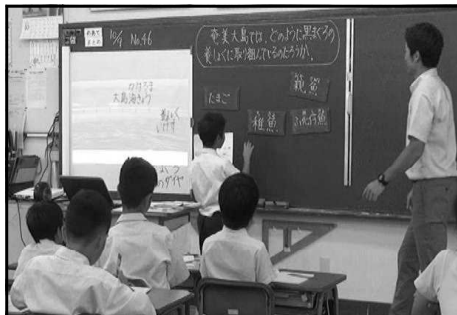
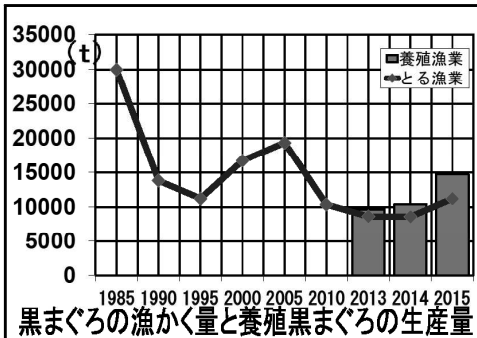
学習過程	主な学習活動	教師の具体的な働き掛け
つかむ・見通す	1 寿司ネタと魚の形や大きさ基に気付いたことや疑問に思ったことから学習課題を設定する。 水産業に取り組む人々は、どのようにして魚をとったり、とどけたりしているのだろうか。 2 学習課題について予想し、調べる内容や方法について、追究計画を立てる。 〔調べる内容：追究の柱となるもの〕 ○ 主な生産地(遠洋, 沖合, 沿岸) ○ とる漁業に取り組む人々の工夫や努力 ○ 育てる漁業に取り組む人々の工夫や努力	㊦ 写真(寿司ネタ) ○ 魚の消費量の多さを捉えさせるために、寿司ネタや自分たちが食べている食事を振り返らせ、魚が多くを占めていることや、様々な種類や大きさに気付かせる。 ㊦ 写真(実物大の魚) ○ 魚のとり方に疑問をもたせるために、寿司のネタと実際の魚の大きさやネタの色とを関連付けさせながら、「姿形の違う魚をどのようにして釣っているのだろうか。」という問題意識をもたせる。 ○ それぞれの問題意識を焦点化し、自分のくらしと関連させながら、学習課題を設定する。
調べる	3 水産業のさかんな地域を調べる。 4 とる漁業に取り組む人々の工夫や努力について調べる。 (1) 長崎県の沖合漁業 (2) 魚の流通や交通網 (3) 静岡県遠洋漁業 (4) 魚の運輸や水産業の抱えている問題 5 養殖漁業や栽培漁業に取り組む人々の工夫や努力について調べる。 (1) 青森県の養殖漁業と栽培漁業 (2) 奄美大島の養殖漁業【本時】 — とる漁業に取り組む人々の工夫や努力 — 魚をする漁場 ・海流 ・大陸棚 プランクトン 様々な魚 生産を高める工夫 問題点 ・輸入増加 ・200海里 ・後継者 沿岸漁業・沖合漁業・遠洋漁業 消費者に届ける工夫 鮮度 ・流通(水揚げ→店頭) ・交通網(輸送手段, 高速道路) — 育てる漁業に取り組む人々の工夫や努力 — 養殖漁業 ・卵や稚魚から育成 栽培漁業 ・ふ化→放流 ・自然の中で育成 安定した生産量	㊦ 日本地図(国内の主な漁港) ○ 漁港別の水揚げ高や、とれる魚の種類と海流とを関連付け、主な生産地について話し合わせる。 ㊦ 写真(魚の一本釣り, 巻き網漁) ○ 「とり方に工夫があるのではないか。」という疑問をもたせるために、一本釣りと巻き網漁を比較させて話し合わせる。 ㊦ 日本地図(交通網) ○ 新鮮なまま消費地へ運ぶ工夫を捉えさせるために、高速道路が全国に行き渡っていることに着目させる。 ㊦ 写真(かつおの水揚げ) ○ 外国までかつおを釣りに行っていることに気付かせるために、凍っていることに着目させ、鮮度について話し合わせる。 ㊦ 世界地図(200海里漁業水域) ○ 漁獲量や様々な種類の魚を確保するための努力をしていることを捉えさせるために、漁業を行っている海洋を調べさせる。 ㊦ グラフ(漁業別の生産量の変化) ○ 水産業の問題点に着目させるために、とる漁業が減っている理由について、輸入量の増加や後継者のこととを関連付けて話し合わせる。 ㊦ グラフ(ひらめの漁獲量) ○ 水産資源を守る工夫を捉えさせるために、「なぜ放流数が増えているのだろうか。」という問いをもたせ、大きな魚だけとっている事実を基に話し合わせる。 ㊦ グラフ(黒まぐろの漁獲量と生産量) ○ 養殖漁業は安定して生産できることと黒まぐろの漁獲量が減少していることから、今後養殖の黒まぐろを進めていくよさについて話し合わせる。
広まげとめる	6 これまでの学習を基にして、個人新聞にまとめる。 漁や魚の生産が安定して行えるように工夫したり、新鮮な魚を届けられるようにしたりしている。	○ これまでの学習を振り返らせるために、学習問題に対する自分の考えを「論述」させ、水産業に関わる人々の取組を振り返らせる。

4 本 時

(1) 目 標

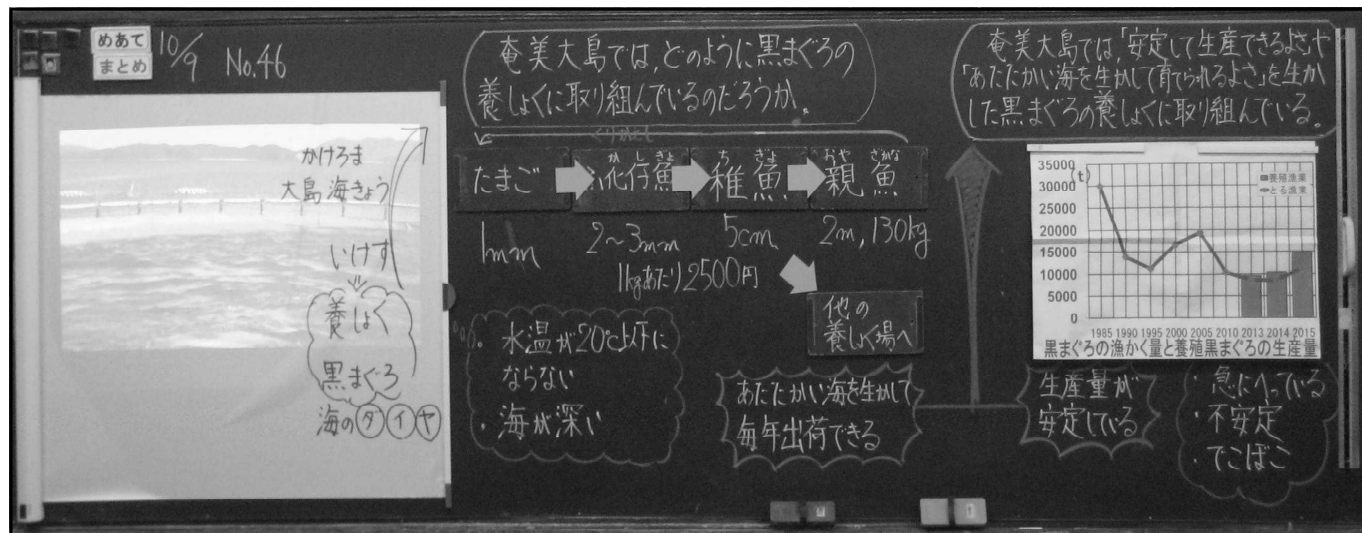
- ア 黒まぐろの養殖に取り組む人々の工夫や努力と天然の黒まぐろの漁獲量とを関連付けて考え、黒まぐろの養殖が安定して行われているよさについて意欲的に追究することができる
- イ 黒まぐろの養殖に取り組む人々の工夫や努力について話し合うことを通して、黒まぐろの養殖の生産量が安定していることや養殖には費用がかかることを捉えることができる。

(2) 課題を解決するために必要な資質・能力を育てる授業づくりのワークシート（本時の実際）

導 入	1 課題設定	学習課題の設定による学習への「関心・意欲」の喚起	想定される主体的・協働的な学習
		奄美大島では、どのように黒まぐろの養しょくに取り組んでいるだろうか。	◎ DVD（黒まぐろが餌を食べる様子） ○ 「どうやって、大きな黒まぐろを育てているのだろうか。」という疑問をもたせるために、いけすやその大きさに着目させる。 
展 示	2 知識の習得	学習課題解決のために習得させたい「基礎的・基本的な知識」	◎ A 短冊黑板（養殖の生産過程） ○ 生産過程の順序を明確にするために、読み物資料から読み取ったことを基に、 <u>短冊黑板を使って順序を整理しながら話し合わせる。</u> 
		○ 奄美大島の黒まぐろの養殖に関する知識 ① 卵からふ化させて育てていること ② 親魚まで育て、産んだ卵をまた、ふ化させることで、毎年出荷できること ③ 暖かい海を生かし育てていること ○ 我が国の黒まぐろの漁獲量や生産量に関する知識 ① 漁獲量は不安定であり、近年減少していること ② 生産量は増加していること	
開 演	3 技能の習得	学習課題解決のために習得させたい「資料活用の技能」	○ 毎年出荷できる養殖のよさに気付かせるために、「親魚が産んだ卵はどうするのだろうか。」と発問し、新たに卵をふ化させることで次の出荷につながるよさや1kg大きくする費用について話し合わせる。 ◎ グラフ（とる漁業による黒まぐろの漁獲量） ○ 漁獲量の推移を全体的に読み取らせるために、 <u>増加や減少に着目させながら、近年はどのようなになっているのかをペアで話し合わせる。</u> 
		習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」	
4 活用		○ 奄美大島で養殖に取り組むよさは何だろうか。 ① 海が暖かいので、黒まぐろが卵を産める環境である。 ② 年間を通じて出荷できるので、漁獲量よりも安定している。	○ 養殖業は安定して生産できることをとらえさせるために、とる漁業は漁獲量が安定しないことと養殖の黒まぐろが毎年出荷できることを関連付けて話し合わせる。

終 末 め	5	予想される児童の「表現」例	○ 黒まぐろの漁獲量が減少していることと近年の生産量とを比較させ、今後養殖の黒まぐろを進めていくよさや奄美大島で養殖に取り組むよさについて話し合わせる。
		奄美大島では、「安定して生産できるよさ」や「あたたかい海を生かして育てられるよさ」を生かして、黒まぐろの養いよくに取り組んでいる。	○ 追究問題に対する自分の考えを明らかにさせるために、「安定」をキーワードとした「説明」をノートに記入させる。

(3) 本時の板書



5 考 察

(1) 課題設定について

ここでは、地元奄美大島で、黒まぐろの養殖を行っていることへの関心・意欲を高めるために、VTRで親魚に餌をあげる様子を視聴した。

- 泳いでいる魚は黒まぐろであること。
- いけすの中を泳いでいることやえさをあげていることから、養殖業であること。
- 対岸に加計呂麻島が見えることから、大島海峡であること。

以上のことを問い掛けることで、本時で学ぶことを焦点化し、学習課題を設定できた。

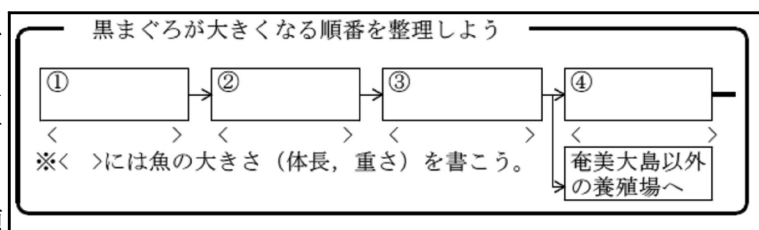
(2) 知識や技能の習得について

ア 読み物資料の読み取りと解釈

奄美大島で行われる養殖の黒まぐろについて、具体的に調べさせるために、教師自作の読み物資料を配布した。

読み取りの際は、本時の学習課題に即して自力解決させたことを、上のような穴埋めに取り組ませることで、調べたことを整理できるようにした。そして、ペアで確認をしたり学び合わせたりしたことから、学級全体で養殖の黒まぐろの成長過程を話し合った。

養殖業には、毎年出荷できるよさがあることを捉えさせるために、「親魚から次へつなぐとしたら、どこに矢印を引くとよいだろうか。」と発問し、親魚から卵をかえし、黒まぐろを大きくするという繰り返しになっていることに着目させた。



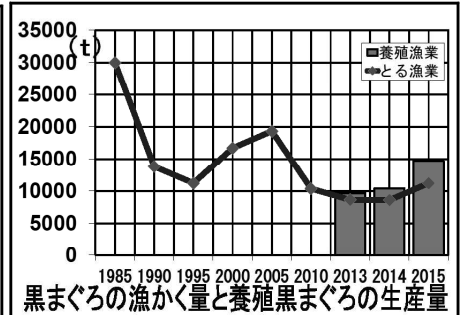
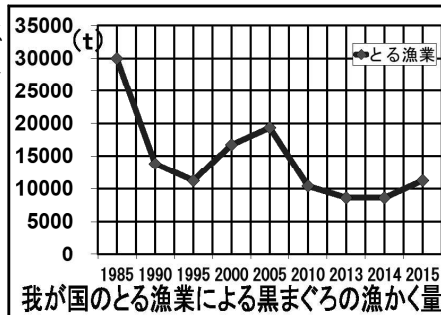
イ 漁獲量や生産量に関するグラフの読み取りと解釈

漁獲量のグラフと、漁獲量と生産量のグラフを順に読み取らせた。

まず、漁獲量のグラフを提示した。

○ 減っている。

○ 山の形



との発表やつぶやきが出されたことを基に、「このように、量が上がったたり下がったりしていることを一言で何と表せばいいだろうか。」と問い返し、不安定であることに気付かせた。

次に、漁獲量と生産量の入ったグラフを提示し、生産量に着目させた。児童からは、

○ 増えている。

○ 漁獲量よりも多くなっている。

との発表やつぶやきが出された。

(3) 活用について

黒まぐろの漁獲量が不安定であることと、養殖の黒まぐろが毎年出荷できることや生産量が増えていることとを関連付けさせながら、「生産量はどうなっていると言えるだろうか。」と発問し、養殖の黒まぐろの生産量は安定していることをとらえさせることができた。その際、ペアで話しやすいように、「生産量が～する」と板書し、波線部分を考えさせるようにした。



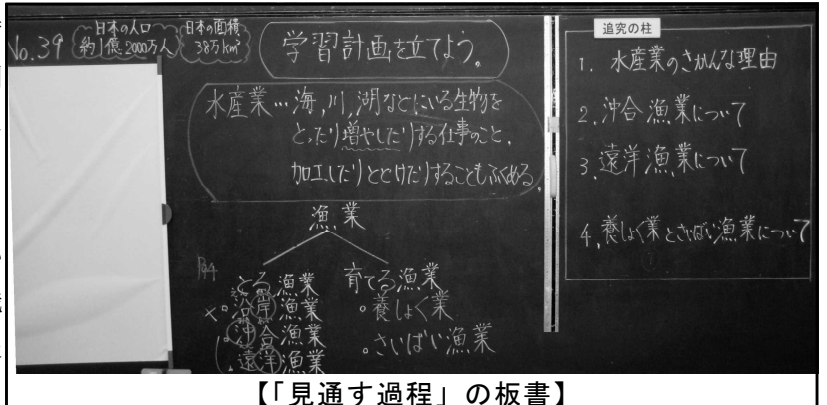
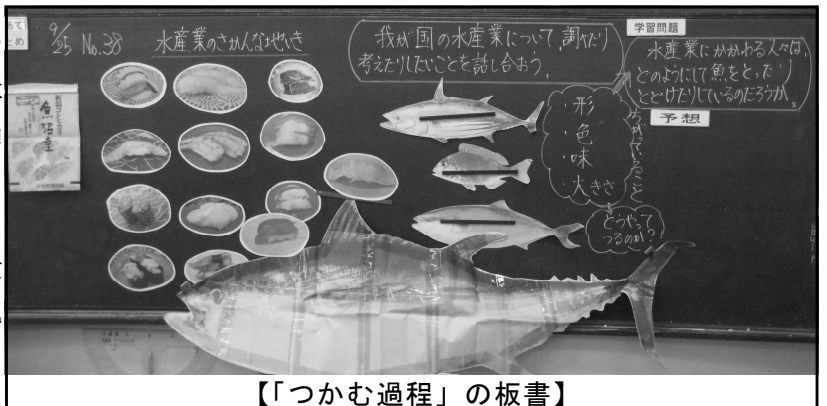
(4) 単元全体を通じて

社会科の学習は、一単位時間のみで追究するのではなく、単元全体を見通した働き掛けを、学習過程に即して進める必要がある。

そこで、「つかむ過程」では、児童が好きな寿司ネタから、身近に水産物がたくさんあることに気付かせた。また、それらの寿司ネタの魚は、形や色、大きさ、味がそれぞれ違うこと、魚はすぐに腐ることを基に、単元全体の学習問題を設定した。また、学習問題に対する予想を考えさせた。

そして、「見通す過程」では、本単元で身に付けさせておきたい言葉や漁業に関する基礎的な知識を整理し、「調べる過程」での追究が主体的・協働的に進められるようにした。そうすることで、児童が見通しをもって追究することができるようにした。

最後に、「まとめる・広げる過程」において、水産業の学習を振り返り、自分の考えを「論述」させる場を設定し、次のように「論述」する様子が見られた。



課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
－第３学年「人権と共生社会」の実践を通して－

鹿児島市立城西中学校
教諭 森 永 真

I 研究実践の目的

本研究では、研究テーマを踏まえつつ、日本国憲法が定める社会権について、教科書等の資料から読み取り、考察するなど、具体的な事例を通して生徒に理解させ、要点をまとめることができるようにすることをねらいとしている。

II 研究の実際

1 単元名 「人権と共生社会」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領〔公民的分野〕２内容（３）「私たちと政治」ア「人間の尊重と日本国憲法の基本原則」の中項目を受けて構成した単元である。ここでは、人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせ、法の意義を理解させるとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせることが主な内容となっている。基本的人権の理念が、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であり、過去幾多の試練に耐えてきた価値のあるものであること、自由で幸福な人間らしい生活を願う人々にとって、広く支持され得る普遍的な内容をもっていることに気付かせ、基本的人権の尊重が日本国憲法の基本原則となっていることを理解させていきたい。

また、現代の社会において、人間の生き方が問われ、豊かな人間性を育てることが基本的な課題として重視されているが、その際、人間の尊重を核心とする基本的人権の理念は最もすぐれた具体的な指針となることも気付かせていきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的に意欲的な学習態度で、真面目に取り組むことができる。教師の問い掛けに対して積極的に発言する生徒も見られ、高い関心をもって取り組んでいる生徒も多い。

その一方で、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や、各資料から読み取った内容を基に自分の考えをまとめたり、説明したりすることについては苦手を感じている生徒も多く、すぐに解答を求めたり、学習内容を丸暗記したりする場面も多く見られる。このようなことから、自分の考えを整理して記述したり、説明したりする能力を高めることが喫緊の課題となっている。

生徒はこれまで、歴史的分野において人権の歴史について学習し、公民的分野においては日本国憲法の授業を通して、基本的人権について学習している。憲法の学習に関しては、地理的分野や歴史的分野の学習と比べて内容が難しいと感じている生徒も多いため、生徒の関心を高めることも課題である。

(3) 指導観

指導に当たっては、教科書などの身近な資料や日常的な具体的事例を取り上げ、日本国憲法や人権についての関心を高めながら、基礎的・基本的な学習内容の定着を図りたい。また、ペアやグループで話し合いをする場面を設定し、資料から読み取った情報の解釈に取り組ませたい。その過程を通じて、主体的に課題を解決していく態度を養わせていきたいと考えている。

また、生徒に思考・判断を迫る学習課題を設定することで、課題解決的な学習を充実させていきたい。さらに、学習課題解決の際は、以前の授業や本時の授業の過程で習得した知識や技能を活用して自力で解決する場面を設定していきたい。その指導と見取りのために、県総合教育センターが提唱している「判断基準」を設定するとともに、「読み取り」、「解釈」、「説明」を中心とした言語活動の視点を明確に位置付けて指導に当たっていききたいと考えている。

2 本単元の評価規準，指導・評価計画

(1) 単元の評価規準「人権と共生社会」

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日本国憲法に定められている基本的人権と社会生活とのつながりに関心を持ち，具体的な事例を意欲的に探したり，調べたりしている。	身近な生活や資料の中から，基本的人権に関する課題について調べ，民主的な社会をつくるにはどうしたらよいかについて，話し合いなどを通じて多面的・多角的に考え，自らの考えを述べたり，レポートにまとめたりしている。	各資料から，基本的人権に関する課題について読み取り，それをノートにまとめたり，発表したりしている。	日本国憲法に定められた基本的人権について，具体的な生活との関わりから理解し，自由・権利と責任・義務の関係を社会生活の基本として広い視野から正しく認識し，その知識を身に付けている。

(2) 単元の評価・指導計画（全8時間）

時	学習内容	ねらい・言語活動	評価の観点				評価規準等〔観点〕
			関	思	技	知	
1	○ 基本的人権と個人の尊重	- 基本的人権の尊重の原理に関心を持ち，進んで追究しようとする意欲をもつ。 - ハンセン病の事例を通して，人権の保障が社会的弱者を差別から救済するためのよりどころになっていることを理解する。	○				- 基本的人権を尊重するとはどのようなことかについて考え，意欲的に話し合っている。 - 具体的な事例に基づいて，基本的人権の尊重や個人の尊重の考え方を理解し，その知識を身に付けている。
2	○ 平等権と社会権	- 差別をなくすためにどのような努力が行われ，また自分たちにできることは何かを考え，表現する。 - 具体的な事例を通して，人権課題のあらましとともに，法が差別の解消に大きな役割を果たしていることを理解する。	○				- 具体的な事例を通して差別に関心を持ち，その現状，背景，解決への取組について，意欲的に追究している。 - 差別について，話し合いを通して多面的・多角的に考察するとともに，差別をなくすために自分たちにできることは何かを考え，説明している。 - 資料から差別問題への取組の現状を読み取り，それを分かりやすくまとめている。 - 具体的な人権問題について，その現状や改善の取組を，法の果たす役割に着目しながら理解し，その知識を身に付けている。
3				○		○	
4	○ 共生社会について考えよう	- 具体的な資料に基づき，差別の解消や共生社会の実現について関心をもつ。 - 差別の解消や共生社	○				差別の解消や共生社会の実現に関心を持ち，資料に真剣に向き合い，意欲的に追究している。

4		会の実現について、社会の一員としての立場から考え、発表したり、話し合ったりする。		○		・ 資料に基づき、差別の解消や共生社会の実現について自らの考えをまとめ、表現している。
5	○ 自由権	- 日本国憲法が定める自由権について、具体的な事例を通して理解する。 - 経済活動の自由が、精神の自由に比べて広く制限されている理由について考え、理解する。		○		- 自由権にはどのようなものがあり、それらがなぜ重要なのかを理解し、その知識を身に付けている。 - 経済活動の自由が、精神の自由に比べて法律で広く制限されている理由を具体例を通して考え、その過程や結果を分かりやすく表現している。
6	○ 社会権 (本時)	- 日本国憲法が定める社会権について、具体的な事例を通して理解する。 - 社会権の内容について、教科書等の資料から読み取り、考察し、要点をまとめることができる。		○		- 社会権にはどのようなものがあり、それらがなぜ重要なのかを理解し、その知識を身に付けている。 - 社会権の内容について、教科書等の資料から読み取り、考察し、要点をまとめ、表現している。
7	○ 人権保障を確かなものに	- 人権を確保するための権利及び国民の義務について、具体的な事例を通して理解する。 「公共の福祉」による人権の制約はどの程度まで許されるのか、具体的な事例を通して考え、自分の考えを表現する。		○		- 人権を確保するための権利及び国民の義務にはどのようなものがあるかを理解し、その知識を身に付けている。 - 権利と義務の関係について考え、「公共の福祉」による人権の制約はどの程度まで許されるのかについて事例を通して多面的・多角的に考察し、意見交換をしたり、文章にまとめたりしている。
8	○ 単元のまとめ	・ 本単元で扱った資料等を基に公民的事象の特色や因果関係を説明する。	○	○	○	・ 単元テストを通して、本単元に関する補充や深化を図る。

3 言語活動との関連

言語活動の充実と、指導法の改善を図るため、下記の視点を定めた。

視点	内容	具体的な指導法
読み取り	社会的事象に関する事実を調査・見学や地図、統計などの <u>各種の資料等を基に</u> 、読み取る。	- 音読 - アンダーラインを引かせるなど
解 釈	社会的事象のもつ特色や意味、意義について <u>各種の資料等を基に</u> 、考察する。	読み取った内容を基にした話し合い活動(ペア・グループ)など
説 明	社会的事象間の特色や、事象間の関連を <u>各種の資料等を基に</u> 考察し、表現する。	自分で考える時間の設定
論 述	社会的事象について、自分なりの考えを <u>各種の資料等を根拠に</u> 、表現する。	- 短文にまとめる - 発表する など

4 本時の実際

(1) 題材名 社会権

(2) 本時の目標

ア 日本国憲法が定める社会権について，具体的な事例を通して理解する。

イ 社会権の内容について，教科書等の資料から読み取り，考察し，要点をまとめることができる。

(3) 課題を解決するために必要な資質・能力を育てる授業づくりのワークシート

過程		課題解決のための主な学習活動の流れ	形態	主体的・協働的な学習
導入	1 課題設定	学習課題設定による学習への「関心・意欲」の喚起 教科書の写真や資料等を見て，社会権について関心をもたせ，学習課題を設定させる。 なぜ，社会権が憲法に規定されているのだろうか。	一斉	学習課題を生徒自身が設定できるよう，関心を高める。 読み取り
	2 知識の習得	習得させるべき「基礎的・基本的な知識」 (1) 社会権の種類 ① 生存権 ② 教育を受ける権利 ③ 勤労の権利 ④ 労働基本権 ・ 団結権 ・ 団体交渉権 ・ 団体行動権 (2) 社会保障制度の充実	一斉・個別	教科書記述や，憲法条文等から，社会権に該当すると思われる権利を，生徒自身がリストアップできるようにさせる。 読み取り
展開	3 技能の習得	習得させるべき「資料活用の技能」 【資料】 ア 憲法第25条第1項 イ 小学校入学当日の様子 ウ 生涯学習（料理教室）の様子 エ 労使交渉の写真，プロ野球のストライキ オ 経済格差の拡大と生存権	グループ	グループごとに，資料から情報を読み取らせ，それがどのような意味をもっているか考えさせる。 読み取り ・ 解釈
	4 活用	習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」 ①生存権，②教育を受ける権利，③勤労の権利，④労働基本権について，それぞれが定められている理由をア・エの資料等を基に考え，説明できるようにさせる。 社会保障制度を充実させる必要がある理由について，オの資料等を基に考え，説明できるようにさせる。	グループ	グループごとに，習得した知識や技能を活用して，どのように課題を解決すればよいか考えさせる。 解釈 ・ 説明
終末	5 課題解決	学習課題解決として予想される生徒の表現例 社会生活を経済的に保障するための，生存権や教育を受ける権利，勤労の権利，労働基本権などの全ての社会権は人々が人間らしく生きるために必要な権利であるため，日本国憲法に規定されている。 判断基準B 社会権は「人間らしく生きるために必要な権利である」という理由を説明している。	個別・一斉	学習課題に対するまとめ（課題解決）案を作り，学級全体に説明できるようにさせる。 説明

(4) 本時の展開

	時間	主な学習活動	形態	視点	指導上の留意点
導入	5分	1 本時の学習課題を設定する。 なぜ、社会権が憲法に規定されているのだろうか。	一斉	読み取り	☐ 本時の学習内容を理解させる。 ☐ 新聞資料を用いて、生徒が抱えている社会権のイメージを確認する。
展開	10分	2 日本国憲法に規定されている社会権とその内容について知る。 ① 生存権 ② 教育を受ける権利 ③ 勤労の権利 ④ 労働基本権	一斉	読み取り	☐ 教科書pp. 50-51を音読し、重要な記述にアンダーラインを引かせる。アンダーラインを基に、内容をまとめさせる。
	10分	3 「生存権、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権」が定められている理由を考える。	グループ	解釈	☐ 教科書を参考に設定されている理由を考えさせる。 ☐ 歴史資料も参考に根拠・理由を考えるように指示をする。
	10分	4 社会権が設定されている理由を考える。	グループ	説明	☐ 必要に応じてメモをとるように指示をする。 ☐ 再度、考察し、修正する点は、赤ペンで修正するように指示をする。
	5分	5 社会生活を経済的に保障することが、人間らしく生きるために必要なことであるかどうかについて考える。	グループ	解釈	☐ グループ内で討議させ、発表させる。
まとめ	10分	6 本時のまとめをする。 まとめ 社会生活を経済的に保障するための、生存権や教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権などの全ての社会権は人々が人間らしく生きるために必要な権利であるため、日本国憲法に規定されている。	一斉	説明	☐ 教科書の記述を参考にまとめるように指示をする。 ☐ 修正する点は、赤ペンで修正するように指示をする。

(5) 評価

ア 社会権にはどのようなものがあり、それらがなぜ重要なのかを理解し、その知識を身に付けることができたか。

イ 社会権の内容について、教科書等の資料から読み取り、考察し、要点をまとめることができたか。

5 考察

判断基準Bとして、「社会権は、人間らしく生きるために必要な権利であるという理由を説明している。」と設定し、社会権が保障している内容を記述させた。

(1) 生徒の記述の例から

まとめ
社会権は、人々が
人間らしく生きるために
生活の基礎を保障
するため
日本国憲法に規定されている。

この記述は、教科書（東京書籍）p. 50の冒頭を参考にまとめたと思われるものである。多くの生徒が、社会権は「生活の基礎」を保障するものであるとまとめていたが、生活の基礎が具体的にどのようなものなのかイメージできていない生徒も多いと思われる。単元プリントを活用した小テストを行った際に、事後指導を実施した。

まとめ 人間が人間らしく生きる
ために生活の基礎を保障するのが
社会権である。
そのため 精神的・経済的に
充実した生活を保障することが
必要であるため
日本国憲法に規定されている。

この記述では、「社会権が人間らしく生きるために生活の基礎を保障するものであり、そのために精神的・経済的に充実した生活を保障する必要があること」を述べている。まとめる時に、教科書の記述のみを参考にしたのではなく、生活の基礎の内容まで考察しており、グループ内の意見交換を通して、考えを深化していったと思われる。

本時の授業においては、ほとんどの生徒が、「人間らしく生きるために必要な権利である」という内容を、教科書を参考に、「生活の基礎を保障する」と記述していた。判断基準Bに達している生徒が多かったが、その一方で、「学習課題に対して、教科書から正解になりそうな箇所をグループ内で探し、それを文脈が合うようにまとめる」という傾向が感じられた。

III 成果と課題

1 研究の成果

- 授業の視点として、「読み取り」・「解釈」・「説明」・「論述」を設定し、指導を行った。習得させるべき「基礎的・基本的な知識」や「資料活用 of 技能」、習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」の場面において、生徒に分かりやすく指導を行うことができた。
- 今までは、生徒の関心も「基礎的・基本的な知識」や「資料活用 of 技能」の習得に向かいがちであったが、指導法や資料提示の仕方に工夫を加えることにより、習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」の学習活動にも意欲的に取り組みようになってきた。

2 課題

- 習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」の学習活動において、すぐに正解を求める傾向が強い。「じっくり考える」、「グループ内で討議する」といった学習活動の工夫・改善を図る必要がある。
 - まとめる際、深く考えずに教科書の記述をそのまま転記する生徒もいるため、指導が必要である。また、授業における指示内容を精選する必要がある。
- ※ アクティブ・ラーニングを踏まえた評価問題の研究も行っていきたい。

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
－第１学年公民科「現代の経済社会と私たちの生活」の実践を通して－

鹿児島県立志布志高等学校
教 諭 岩切 義弘

I 研究実践の目的

生徒の思考力・判断力・表現力を育成する授業を展開するためには、言語活動の充実を図ることが重要であるとされている。しかし、高等学校公民科においては、知識・理解の定着を重視した授業が中心となっていた。そのような状況を踏まえ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成について研究が進められ、県総合教育センターは、これまでに「判断基準」を用いた授業を展開するなど、授業方法の改善を提案してきた。本研究の実践の目的は、これまでの研究成果を踏まえ、課題解決的な授業を展開する中で生徒が主体的・協働的に学習する場面を設定することによって、更に生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図ることにある。そこで本検証授業では、１年生の現代社会において課題解決的な授業を行い、現状におけるその成果と課題を検証することとした。

II 研究の実際

1 教材観、生徒観

(1) 教材観

現代の経済社会において、自由な経済活動を基本とする市場経済の意義とその機能や限界、財政、租税について理解を深めさせ、経済成長や景気変動や国民福祉の向上とどのような関係があるかについて考察させる。その際、市場規模の拡大と地球環境の保全などに関して、「幸福、正義、公正」を用いて個人や企業の経済活動における役割と責任について探究する姿勢を養わせたい。

(2) 生徒観

１年１組は、学習への意欲関心が高く、様々な発問や学習課題に対しても熱心に取り組む生徒が多い。現代社会の授業では、日頃から社会的事象に対して考察させる「シンキング・タイム」（周りの生徒同士で話し合いながら考える時間）を設けており、積極的に発言する生徒が多い。しかし、論理的思考を基にして適切に発言したり、表現したりする力はまだ身に付いていない状況にある。今回の主体的・協働的な学習を経験させることによって、生徒の論理的な思考を促していきたい。

2 本単元の評価規準と単元の指導計画

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
現代の経済社会（経済体制、経済主体、市場機構、財政活動）に対する関心を高め、現代経済の特質を意欲的に追究しようとしている。	現代の経済社会において、日常生活の視点からの課題（価格決定、消費税問題）について多角的・多面的に考察し、公正に判断してその過程や結果を適切に表現している。	現代の経済社会における社会的事象（特に企業の役割、経済成長）に関して、学習に役立つ情報を適切に選択して有効に活用している。	家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みに関わる経済の基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

(2) 単元の指導計画

時	学習内容	観点別評価				評価
		関	思	技	知	
1	経済社会と経済体制	○			○	資本主義経済と社会主義経済の特徴について、関心をもち、それぞれの問題点について理解する。
2	現代の企業	○			○	政府・企業・家計の関係について理解し、特に企業の社会的責任について意欲的に追究している。
3 4	市場経済のしくみ (本時)	○	○		○	これまで学んだ知識を活用し、価格決定のメカニズムに関する学習課題について主体的・協働的な学習を行い、話し合った結果を適切に表現している。
5	経済成長と景気変動			○	○	資料を基に、ストック、フロー、国民所得の概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
6	政府の経済的役割と租税の意義		○		○	財政の役割や租税の種類、財政健全化の問題に関する知識を身に付けた上で、消費税増税問題についてグループ活動を通して自分なりの考えをまとめる。

3 課題を解決するために必要な資質・能力を育てる授業づくりのワークシート

導 入	1 課題 設定	学習課題の設定による学習への「関心・意欲・態度」の喚起 社会的な事象の変化によって、需要曲線と供給曲線はどのように変化し、市場にどのような影響を与えるだろうか。	想定される主体的・協働的な学習 ○ 中学校での既習事項である需要曲線と供給曲線について想起し、社会的な事象が価格にどのような影響を与えるかについて予想する。また、「市場規模」とはどのような意味があるのか関心をもつ。 (資料) 課題1：人気商品、課題2：新聞記事 ○ 人気商品が出ることは需要と供給がどのような関係にあるかを考え、一方が動かないことを前提にすれば、価格はどうなるかをグループで考える。 ○ 台風による野菜の不足が需要と供給がどのような関係にあるかを考え、一方が動かないことを前提にすれば、価格はどうなるかをグループで考える。 ○ 需要曲線あるいは供給曲線がシフトする方向と理論的に考察し、グループとしての意見をまとめる。 ○ 課題1、課題2に関して論理的に考察した内容とその結果を代表者が発表する。複数の課題を解決させることにより、価格決定のメカニズムを多面的・多角的に捉えさせ、その概念の定着を図る。 (資料) 応用事例(環境税) ○ 課題1、課題2で習得した知識・技能を活用して、「環境税の付加」という社会的な事象が価格にどのような影響を与えるかについて論理的に考察し、「市場規模」はどうなるのかを考える。あるいは市場規模とはどのように表現されるかを考え、ホワイトボードを活用して発表する。
	2 知識 の 習 得	学習課題解決のために習得させたい「知識・理解」 ○ 需要と供給の関係で価格が決定し、いずれかがシフトしているという概念 ・ 需要が供給を上回れば、価格は上がるということ ・ 供給が需要を上回れば、価格は下がるということ ・ 需要と供給の交点が均衡価格であり、価格が上下するということは、いずれかの曲線が動いているということ ○ 市場規模は、社会的な事象によって拡大したり、縮小したりするという概念 ・ 均衡価格を頂点とする長方形の面積(価格×数量)が市場規模であるということ	
展 開	3 資料 活用 の 技 能	学習課題解決のために習得させたい「資料活用の技能」 ○ 社会的な事象が需要と供給にどのような影響を与えているかを読み取ることが出来る。 ・ 人気商品の出現→価格の上昇(需要の拡大)→需要曲線が右にシフト ・ 台風による野菜不足→価格の上昇(供給の縮小)→供給曲線が左にシフト ・ 環境税の付加→価格の上昇(供給の縮小)→供給曲線が左にシフト	○ 課題1、課題2で習得した知識・技能を活用して、「環境税の付加」という社会的な事象が価格にどのような影響を与えるかについて論理的に考察し、「市場規模」はどうなるのかを考える。あるいは市場規模とはどのように表現されるかを考え、ホワイトボードを活用して発表する。 ○ 本時の学習内容をまとめたパワーポイントや各グループが作成したホワイトボードを活用して、学習課題に対するまとめを書く。
	4 活用	習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」 ○ 価格が変動することによって「市場の規模」が拡大したり、縮小したりすることに気付き、環境税を付加することによって市場規模は縮小し、ガソリンの消費を抑制することが出来ることに気付く。(あるいはガソリン以外のエネルギーの市場が拡大していくことを予想する。)	
終 末	5 まとめ	予想される生徒の表現例 人気商品が出ることによって需要曲線が右にシフトすると価格が上昇し、市場規模は拡大する。また増税することによって供給曲線が左にシフトすると価格が上昇し、市場規模は縮小する。	

4 本時の実際

(1) 日時、教材等

- ・ 実施日 平成27年 9月17日(木) 5時間目
- ・ 対象 1年1組 (普通科) (計33人)
- ・ 教科書 『高等学校現代社会』(第一学習社)

(2) 本時の目標

- ・ 社会的事象の変化によって、需要曲線や供給曲線が動き、価格が変動することを理解させる。
- ・ グループ活動を通して、社会的な事象と需要(供給)曲線の動きについて適切に説明させる。

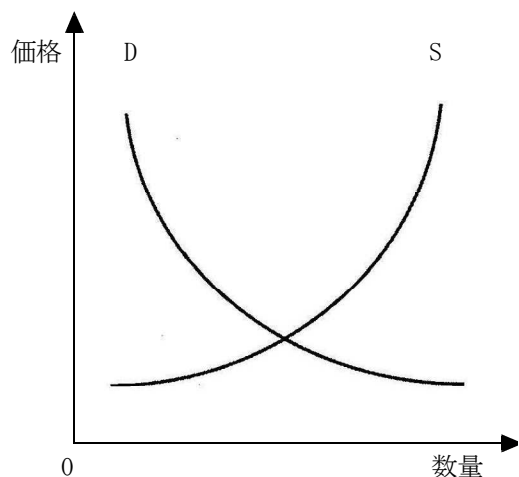
(3) 実際

過程	主な学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価の観点
導入 5分	○ 前時までの復習 ○ 本時の学習課題の確認 【学習課題】 社会的事象の変化によって需要曲線と供給曲線はどのように変化し、市場にどのような影響を与えるだろうか。	・ これまで学んできた市場メカニズムの復習を踏まえ、価格が変動することを確認する。	・ 市場メカニズムについて具体的に理解しているか。(知) ・ 本時の学習課題について問題意識をもっているか。(関)
展開 35分	○ 需要曲線のシフト 「この本やメダルを知っていますか。」 「これらが、市場に与えた影響をグラフに示してみよう。」 ○ 供給曲線のシフト 「この新聞記事の内容が、市場に与えた影響をグラフに示してみよう。」 ○ 環境税の導入を用いた事例 「環境税が導入されると、市場にどのような影響を与えるか。」	・ 人気商品(芥川賞作品の『火花』や「妖怪メダル」)を見せ、需要曲線にどのような変化が起こるか考えさせる。 ・ 台風による野菜の高騰が載っている新聞記事プリントを見せ、供給曲線にどのような変化が起こるか考えさせる。 ・ グループ内で出た意見を、全体に対して発表する。 ・ 応用事例の問題を解き、ワークシートにまとめ、各グループ内で出た意見を全体に対して発表する。	・ 5～6人1組を6グループ作るように指示する。携帯用のホワイトボードを配付する。 ・ 需要曲線がシフトするグループと供給曲線がシフトするグループに分けて、それぞれ話し合いをさせる。その際、どちらの曲線がシフトするかは事前に知らせない。 ・ グループ内での討論を活性化するために、どのような意見も尊重する雰囲気を作るように促す。 ・ 携帯用のホワイトボードを用いて、要点をまとめた確に説明する。 ・ 社会的事象(増税)によって、市場規模の変化について理解し、その影響について考える。(思)
終末 10分	【課題解決】(まとめ) 人気商品が出ることによって需要曲線が右にシフトすると価格が上昇し、市場規模は拡大する。また、増税することによって供給曲線が左にシフトすると価格が上昇し、市場規模は縮小する。		・ 本時の学習を踏まえ、「需要曲線」、「供給曲線」、「市場規模」という言葉を使ってまとめさせる。(思)

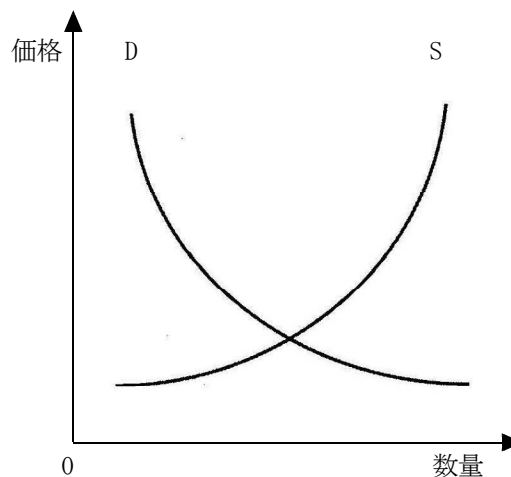
〔学習課題〕

1 需給曲線のシフト

「又吉直樹『火花』が芥川賞」



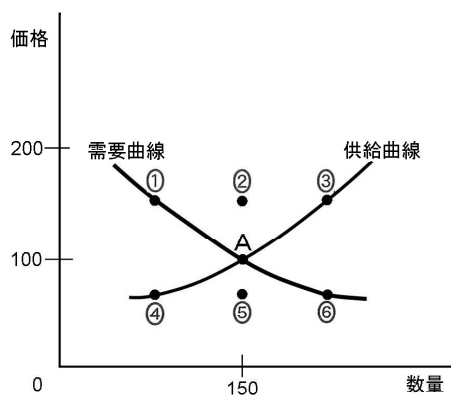
「台風により，野菜が高騰」



2 応用事例

次の図はガソリンの需要曲線と供給曲線を表したもので，当初の均衡点がAであることを示している。出荷に際しガソリンに炭素税（環境税）を課す場合，消費者の事情に変化がないとすれば，課税後の新たな均衡点はどこになるか。図中に補助線を書き入れ最も適当なものを，図中の①～⑥のうちから一つ選べ。また，炭素税（環境税）には地球環境問題に関してどのような効果があると考えられるか説明せよ。

（2010年度センター入試「政治・経済」 本試験改訂）



3 課題解決

Ⅲ 成果と課題

1 研究の成果

- 講義形式の授業においては、短時間で授業者が説明するだけであったが、課題に関する資料の読み取り、思考・判断・表現をする場面を設定することで、学習内容の基本的な知識を活用する場面が生まれ、価格決定のメカニズムの概念が確実に定着した。
- 課題を解決する過程である主体的・協働的な学習において、自己の意見をグループ内で発表したり、他の人の発表を聞いたりすることによって、生徒間で異なる視点を確認し合うなど建設的な議論ができ、グループとして洗練された課題解決を図ることができた。
- 教具の工夫（今回は、簡易なホワイトボードを活用すること）によって、生徒の主体的・協働的な学習が促され、思考・判断・表現をする場面を充実させることができた。

2 研究の課題

- グループ活動（5～6人）で積極的に議論をしようとする生徒が中心になると、議論が活発になるが、そのような生徒がいない場合は、まず学習課題を各自で考えて、長く沈黙が続いて議論の開始が遅れるグループがあった。グループの活動状況を具体的に見て回り、論点を再度、指摘する必要がある。
- 展開部分は、生徒の主体的な活動の時間がほとんどであるので、授業者はあまり発言の機会はないが、生徒が質問をしてくる場合があり、その都度、全体に説明をして生徒の思考を中断させなければならなかった。なるべく、授業者が発言せず、効率よく議論ができるような発問が重要になってくる。主体的・協働的な学習を促すには、生徒に「何が問われていて、どのような活動をすればよいのか」ということを明確に伝えるための発問の工夫が必要である。